

## 3年間のコロナ、新人に予想以上に弊害が！

3年に亘るコロナ禍により、対面コミュニケーションの機会が激減しました。その結果、2023年学卒新人には、ビジネスコミュニケーション力の低下が見られました。

2023年大卒は学生生活の3年以上がコロナ禍でした。大学の授業もほとんどがリモートとなり、アルバイトの機会も減少しました。特に、接客業など、対面コミュニケーション力を修得できる機会のアルバイトは大きく減少したでしょう。

その結果、コロナ前ならアルバイト等を通じて修得できていた“ビジネスコミュニケーション力”が未修得です。最大の問題は“周囲の人の心理を想像できない”ことです。

確かに、仲間内でのコミュニケーションそのものは、よくとります。対面コミュニケーションに飢えていたかのように、活発です。しかし、その内容が大学卒とは感じられないレベルになっているケースが少なくありません。あたかも高校生の会話のようなのです。

その状態で配属されていた場合、受け入れ側の先輩は上司は戸惑ったり、イラッとする人が多いのではないのでしょうか。

ビジネスコミュニケーション修得不足例
1. 入社時・帰社時挨拶の挨拶が不十分
2. 鞆を机の上や通路に置く
3. 上司・先輩が何かし始めても、手伝いを名乗り出ない
4. 平気であくびする（かみ殺したりしない）
5. 褒められたときのリアクションが少ない
6. 奢ってもらった時の対応がわからない
7. 注意された後の反応が悪い。「悪いと思っていないのでは」と感じる
8. 車で訪問した際の駐車場所を知らない
9. 上司や先輩が話している際に飲料を飲む
10. 上司や先輩と一緒に食事をしている際にスマホを見る
11. お客様へのメールに絵文字を使う

しかし、これは本人達だけが悪いわけではありません。知らないだけ、修得できていないだけの部分も多数なのです。いわゆる“無常識状態”です。

したがって、ビジネスコミュニケーションを基本的なことから教えることは、今や必須です。お客様にも多大なる不満を感じさせる恐れがあります。

弊社では、ビジネスの当たり前を浸透徹底するためのお手伝いを数多く実施しています。

是非、ご興味ある方は、ご連絡を下さい。

> お問い合わせはこちら

